

米づくり情報 (NO . 8)

令和3年8月3日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

1 気象概況 (アメダス観測地：伊万里)

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
7月	4	26.7	26.9	30.9	33.0	23.5	22.9	42.4	0.0	28.3	29.6
	5	27.2	28.7	31.6	33.9	23.9	23.5	39.1	0.0	32.3	28.9
	6	27.6	27.9	32.1	33.3	24.2	23.1	44.3	0.0	41.4	60.0
8月	1	27.8	—	32.5	—	24.2	—	34.7	—	34.9	—
	2	27.8	—	32.5	—	24.2	—	38.7	—	33.4	—
	3	27.5	—	32.2	—	24.1	—	44.0	—	30.8	—

【7月3半旬～6半旬の気象概況】

- 1) 平均気温は、平年と比較して0.2～1.5℃程度高く推移した。
- 2) 日照時間は、平年の116%と長い。
- 3) 降水量は、平年の0%と極めて少なく、7月12日～31日まで雨は降っていない。
なお、8月1日～2日にかけて48mmの降雨があった。

2 生育状況 (8月3日)

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	莖数 本/m ²	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概要
夢しずく 6/2移植 東山代町脇野	本年値	91.5	378	13.0 (止)	31.7	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は、平年よりやや低い ・莖数は、平年より多い ・葉色は、平年より薄い ・本年は8月3日現在で出穂走り。 平年並みの8月5日出穂となる見込み
	平年値	95.9	345	13.1	36.5	
	平年比	95	110	-0.1	-4.8	
ヒノヒカリ 6/20移植 松浦町桃川	本年値	70.6	511	12.2	36.8	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は、平年並み ・莖数は、平年より多い ・主稈出葉数は、平年並み ・葉色は平年より薄い
	平年値	70.8	456	12.0	40.4	
	平年比	100	112	+0.2	-3.6	
たんぼの夢 6/15移植 松浦町桃川	本年値	67.4	452	12.3	37.7	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は、平年並み ・莖数は、平年より少ない ・主稈出葉数は、平年並み ・葉色は、平年より薄い
	平年値	66.4	512	11.9	43.7	
	平年比	101	88	+0.4	-6.0	

※夢しずくの耕種概要は稲作情報 No.1、ヒノヒカリ・たんぼの夢の耕種概要は稲作情報 No.3 を参照。

3 今後の管理

1) 山間早植え水稻（5月移植）

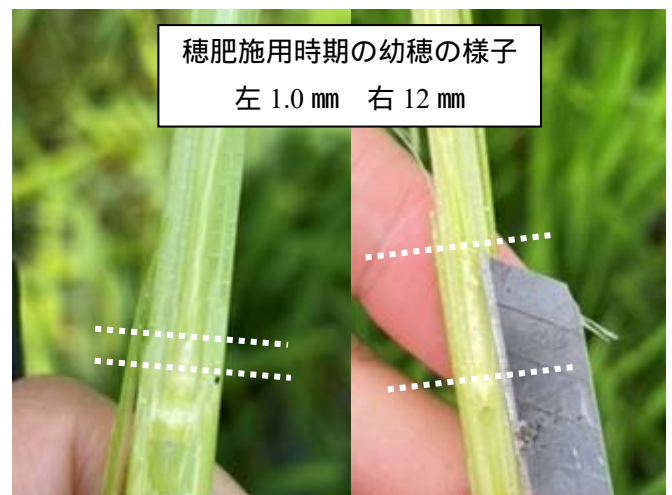
- 5月上中旬移植の夢しずくは、現在、出穂期～乳熟期となっている。
- 穂揃期以降は間断灌水を行い、土壌を固めると共に根の活性化を図る（土が柔らかい圃場では、間断灌水の断水期間を長めにし、土を固める）。また、早期落水による米の品質低下を防ぐため、収穫の7日前までは間断灌水を行い、必ず圃場に水を通すようにする。
- 5月下旬移植の夢しずくは出穂期を迎えている。要水量が大きい時期であるため、出穂10日後までは間断灌水の湛水期間を長めにとる。
- 用水確保が難しい地域は、出穂後1～3日、出穂10日～15日、できれば糊熟期（粒を押しつぶすと粘り気の強い糊状となる時期）に重点的に走水を行い、干ばつ被害の軽減に努める。

2) 普通期水稻「夢しずく」

- まもなく出穂期を迎える。
- 穂孕期から穂揃期にかけては、イネの用水要求度が最も高い時期であるため、水が切れることがないように圃場は湛水管理を徹底する。
- 用水確保が難しい地域は、出穂後1～3日、出穂10日～15日、できれば糊熟期（粒を押しつぶすと粘り気の強い糊状となる時期）に重点的に走水を行い、干ばつ被害の軽減に努める。

3) 普通期水稻「たんぼの夢」、「ヒノヒカリ」等

- まもなく幼穂形成期を迎えるため、中干しは終了し、間断灌水へ移行する。
- 幼穂を確認し、穂肥施用時期を迎えたら、次の診断基準をもとに施用を行う。ただし、「葉いもち病（褐点型・停止型）」の発生が上位葉で確認された場合は、穂肥施用量を減量する。



《参考》出穂期の平年値と穂肥施用時期の目安

※移植日と出穂期は過去7年間で上限と下限を除いた5年分の平均

品種	移植日	出穂期	幼穂形成期（1 mm～15 mm） 穂肥施用時期目安
夢しずく	5月28日	8月5日	7月10日～18日
ヒノヒカリ	6月20日	8月27日	8月1日～9日
たんぼの夢	6月19日	8月30日	8月4日～12日

【穂肥診断の方法】

- ① 幼穂形成始期頃の草丈を測る。
- ② 葉色（群落・SPAD値）を測る。
- ③ 上記①②の測定値を診断指標に当てはめ、施用量を確認する。
- ④ 施用量が確認できたら、記載された施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。

「ヒノヒカリ」の穂肥診断基準

幼穂形成始期の草丈(cm)	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量(kg/10a)	
	群 落	SPAD-502	出穂前日数	幼 穂 長	窒素成分量	BB602
80cm以下	3.0以下	34以下	24~20日前	1~2mm	3.0	18 kg
	3.0~3.4	35~38	20~18日前	3~5mm	3.0	18 kg
	3.5~3.8	39~40	18~14日前	5~15mm	2.0	12 kg
	3.8以上	41以上	16~13日前	15~30mm	1.0以下	6 kg
80cm以上	3.0~3.4	35~38	20~18日前	3~5mm	2.0	12 kg
	3.5~3.8	39~40	18~16日前	5~15mm	1.5	10 kg
	3.8以上	41以上	16~13日前	15~30mm	1.0以下	6 kg以下

「たんぼの夢」の穂肥診断基準

幼穂形成始期の草丈(cm)	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量(kg/10a)	
	群 落	SPAD-502	出穂前日数	幼 穂 長	窒素成分量	BB602
65cm以下	3.8以下	39以下	22~20日前	2~3mm	3.0	18 kg
	3.8~4.2	40~41	18~15日前	5~15mm	1.5	10 kg
	4.2以上	42以上	施 用 し ない			
65cm以上	3.8以上	39以下	22~20日前	2~3mm	1.5	10 kg
	3.8~4.2	40~41	18~15日前	5~15mm	1.0以下	6 kg 以下
	4.2以上	42以上	施 用 し ない			

※ 草丈は幼穂の伸長程度より幼穂形成期（幼穂長1mm）を基点に、前後1日当たり1cm増減する。

※ 止葉が抽出し終わった後は施用しない。

※BB602の施用量は栽培ごよみに準じている。

※穂肥は湛水状態で施用し、最低4日間は止水し落水しない

4) 共通

○主な病害虫の防除適期

病害虫名	稲のステージ 出穂前後日数	防除適期							
		-15	-10	-5	0	+5	+10	+15	+20
紋枯病	並発生の場合	←→							
	多発生の場合	←→		←→					
穂いもち	並発生の場合				←→				
	多発生の場合				←→		←→		
カメムシ類	並発生の場合						←→		←→
	多発生の場合						←→		←→

図3 紋枯病、穂いもち、カメムシ類の防除適期




○いもち病









- 7月26日までのBLASTAM情報（気象条件のみによって葉いもちの発生を予測するシステム）によると、伊万里では7月17・18日に葉いもちの感染好適条件が観測されている（好適条件が観測された1週間後に初発生や病斑数の急激な増加が予想される）。
- 進展型病斑が確認された場合は、速やかにオリブライト1キロ粒剤等で適切に防除を実施する。（ただし、オリブライト1キロ粒剤は出穂10日前まで）
- 窒素過多は発生を助長するので、病斑が見られる圃場では施用量を減らすなど適切な肥培管理を行なう。

○ウンカ類

- トビウカの飛来が確認されており（p5トラップ捕獲状況の通り）、この飛来波の今後の発生予測はp6のとおりである（発生予測図は7月28日更新）。
- 今後の飛来状況および気象条件により、発生予測図は随時更新される。
- 防除時期については、今後の飛来状況や圃場条件（移植時期や品種、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量が異なるため、注意深く圃場を観察する。

ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	 : 真横
トビウウンカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	 : 真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 (体側の色が濃い場合あり)	 : 斜め後ろ

		トビウウンカ	セジロウンカ	ヒメトビウウンカ
幼虫	成虫			
	若齢			
	中齢～老齢			

海外飛来性害虫情報第10号(ウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況)(7月28日更新)

月	日	トビイロウンカ						セジロウンカ						コブノメイガ							
		佐賀県			長崎県			佐賀県			長崎県			佐賀県				長崎県			
		佐賀市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	神崎市	伊万里市	白石町	武雄市	諫早市	諫早市
ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB	粘着トラップ (20W蛍 光灯)	粘着トラップ (20W蛍 光灯)	粘着トラップ (20W蛍 光灯)	粘着トラップ (20W蛍 光灯)	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB		
5月	11日	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	15日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	17日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	19日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0						0	
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1						0	
	21日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	22日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	23日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0						0	
	24日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	25日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	26日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	27日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	28日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	29日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	30日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	31日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0						0	
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1		1	
	3日	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	7	4	0						0	
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0					0	
	5日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						1	
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						2	
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						3	
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	15日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	17日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	19日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	21日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	22日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
	23日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	24日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						1	
	25日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	26日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	27日	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	28日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	29日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
	30日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
7月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	3日	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
	4日	1	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	5日	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	6日	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						3	
	8日	0	0	3	0	0	0	2	3	7	23	4	1	0						1	
	9日	0	0	2	0	0	0	2	16	143	137	1	0	0	0	0	0	0		0	
	10日	0	0	0	0	0	0	4	8	7	65	0	0	0						0	
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	4	38	0	0	0						0	
	12日	0	0	3	0	0	0	1	27	24	12	0	0	0						1	
	13日	0	0	1	0	0	0	0	2	7	4	0	0	0						2	
	14日	0	0	0	0	0	0	0	1	2	6	0	0	0	0	0	0	0		0	
	15日	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0						0	
	16日	0	0	0	0	0	0	0	3	5	0	0	0	0						0	
	17日	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
	18日	0	0	0	0	0	0	0	32	3	0	0	0	0						0	
	19日	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0						0	
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	21日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	22日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0						0	
	23日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
	24日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1							0	
	25日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0						0	
	26日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	

注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップとライトトラップ(予察灯)は、農業試験研究センターで調査。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。
 注2)コブノメイガ:神崎市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。
 ※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門病害虫発生予察室提供。

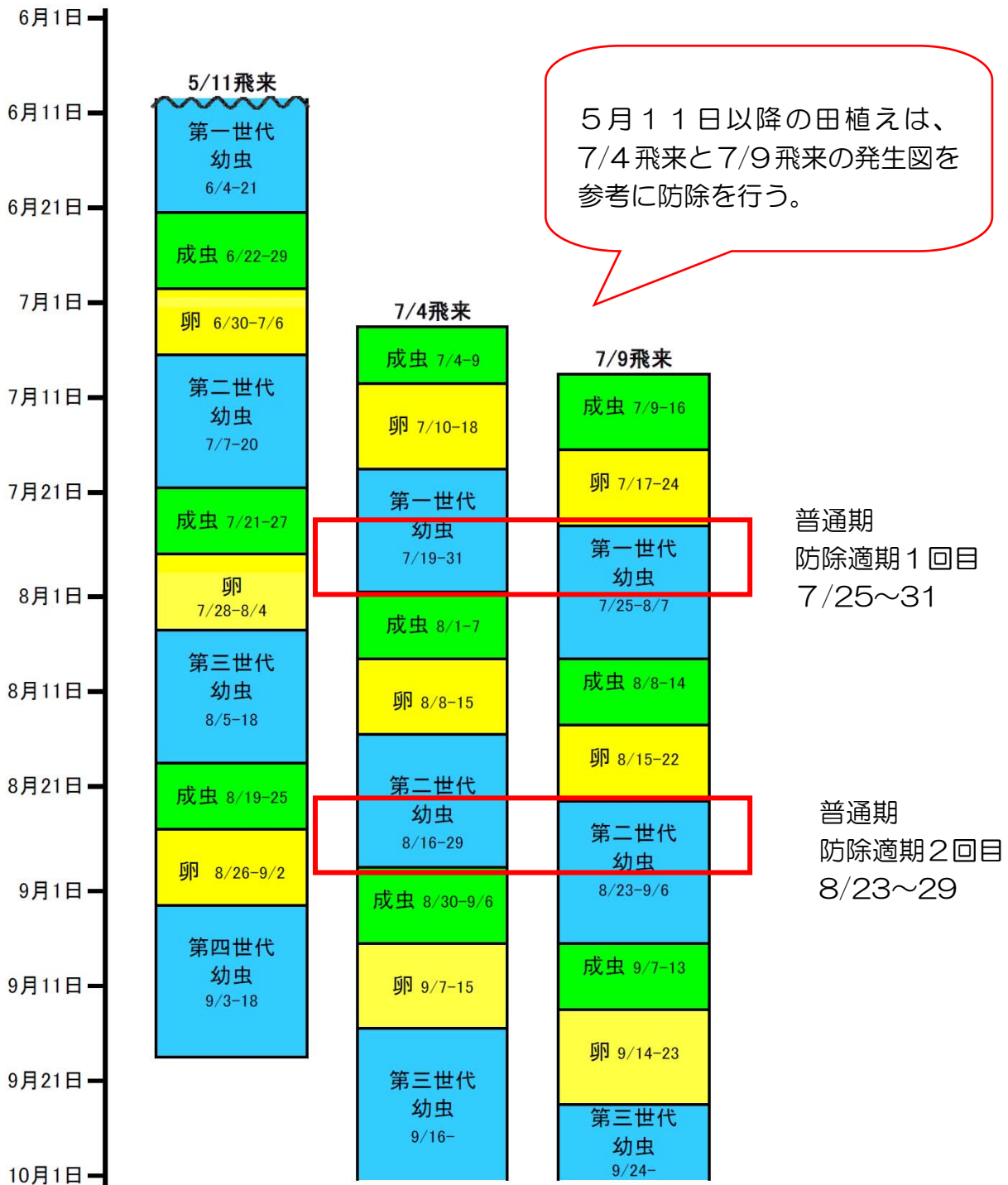


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測(第3版、2021年7月26日作成)

1. 5月11日頃、7月3~4日頃(図では7月4日)、7月8~12日頃(図では7月9日)の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(7月26日以降は平年値)を基に作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

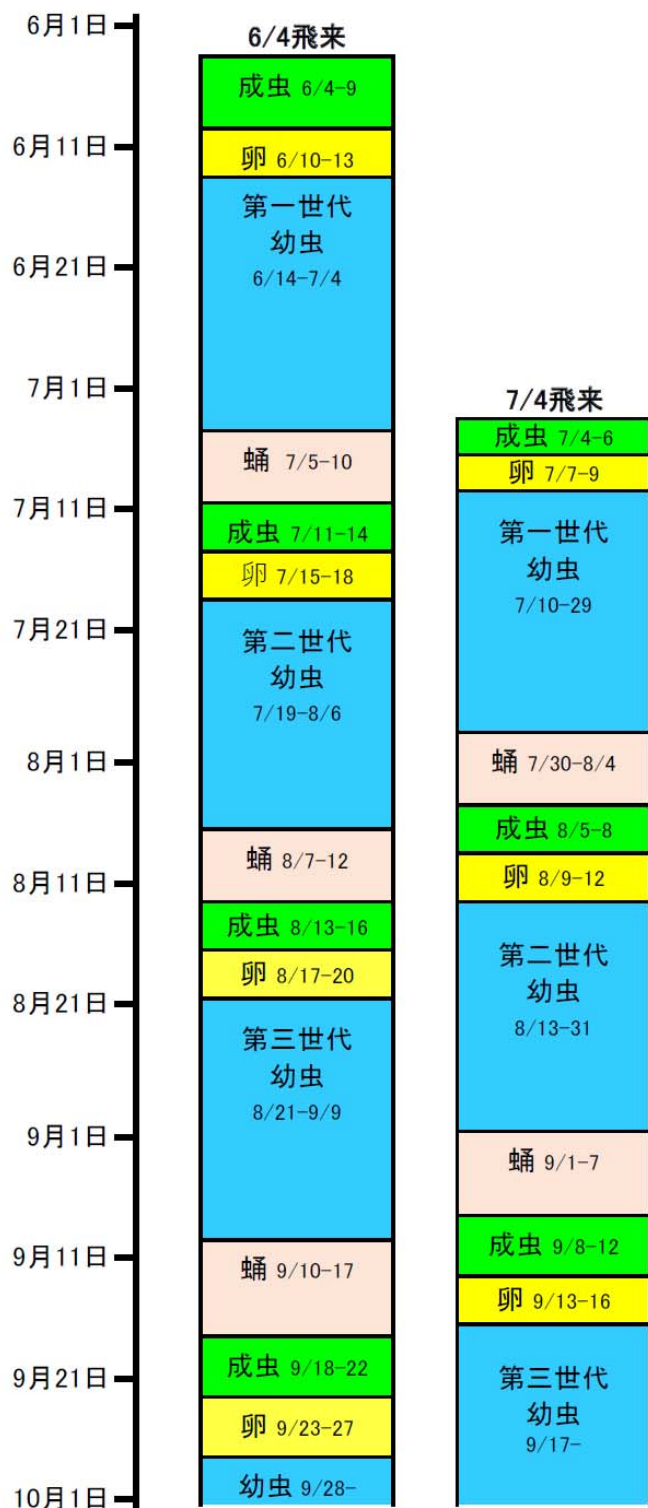


図2 コブノメイガ各世代の発生予測(第2版、2021年7月26日作成)

1. 6月3～4日頃(図では6月4日)、7月3～4日頃(図では7月4日)の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(7月26日以降は平年値)を基に作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

令和3年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：伊万里）

西松浦農業改良普及センター

